

### 愛着の適応レベルの連続性



図1 愛着の型と「愛着障害」との関係—Boris & Zeanahの仮説

(Boris N, Zeanah C. *Infant Ment Health J* 1999<sup>14)</sup>より)

と反応性愛着障害やZeanahらの定義する愛着障害との関係はどのようなものであろうか？ 臨床において目の前にいる乳幼児の愛着がどの程度障害されているかを評価するとき、この疑問は重要なものである。しかし、反応性愛着障害の診断とZeanahらの定義する愛着障害の診断研究が遅れているために、現時点では十分な証拠をもってこの問題に答える段階にない。これまでの種々の研究結果や愛着障害概念の歴史から、BorisとZeanahらはとりあえず、以下に説明するように、図1のような関連にあると推測している<sup>14)</sup>。

愛着を型分類や診断分類することは、愛着のカテゴリカルな区分けである。一方、愛着の適応度を一つのスペクトラムとしてとらえることもできる。愛着の型分類の一つである安全型は、非安全型より適応性が高いと考えられる。そこでBorisとZeanahらは、左に行けば行くほど適応性が高く、右に行くほど適応性が低いスペクトラムのなかに愛着型分類と愛着障害を配置し、これらの関係を仮説した。反応性愛着障害は適応度が最も低い位置におかれ、安全型が最も適応度が高いと仮説されている。すなわち、現時点で「愛着障害」